



子育て通信 プレール



令和8年度6月 泉ヶ丘地域子育て支援センター

『最後の時 —The Last Time—』

赤ちゃんをその腕に抱いた瞬間から あなたはこれまでとは全く違う人生を生きる
以前の人生に戻りたいと思うかもしれない
自由と時間があって 心配することなど何もなかったあの頃の自分に
今まで経験したことのないほどの徒労感 毎日毎日まったく同じ日々
ミルクを与えて背中をさすってやり おむつを替えては泣かれて
ぐずられて嫌がられて 昼寝をしすぎてもしなくても心配で
終わることのない永遠の繰り返しに思えるかもしれない



だけど忘れないで……

すべてのことには、「最後のとき」があるということを
ご飯を食べさせてやるのはこれが最後、というときがやってくる
長い一日のあと子どもがあなたの膝で寝てしまう だけど眠っている子どもを抱くのはこれが最後
子どもを抱っこ紐で抱えて出かける だけど抱っこ紐を使うのはこれが最後
夜はお風呂で髪を洗ってやる だけど明日からはもう一人でできると言われる
道を渡るときには手を握ってくる だけど手をつなぐのはこれが最後
夜中こっそり寝室にやってきてベッドにもぐりこんでくる だけどそんなふうに起こされるのはこれが最後
昼下がりに歌いながら手遊びをする だけどその歌を歌ってやるのはこれが最後
学校まで送っていけば行ってきますのキスをしてくる だけど次の日からは一人でだいじょうぶと言われる
寝る前に本を読み聞かせて 汚れた顔をふいてやるのもこれが最後
子どもが両手を広げて あなたの胸に飛び込んでくるのもこれが最後



だけど「これが最後」ということはあなたには分からない
それがもう二度と起こらないのだと気付くころには
すでに時は流れてしまっている



だから今、あなたの人生のこの瞬間にも たくさんの「最後」があることを忘れないで
もう二度とないのだと気付いてはじめてあと一日でいいから、あと一度きりでいいから、と切望するような
大切な「最後のとき」があることを

今回紹介したこの詩は作者不詳の外国の詩です。子育てをしていると、こどもの姿に心安らぐ時もあれば、「どうして…」と悩んだり不安に思ってしまうことも少なくないと思います。でも、こどもの成長とともにどんなことにも必ず「最後のとき」はやってきます。この詩を読んで思い浮かべること・感じることは一人ひとり違うと思いますが、その気持ちを忘れずにこれからの時間・日々を大切に過ごせていけたら良いですね。